

GE-2-i-10	<b>C 医療哲学ゼミナール</b>	第2学年	後期 選択必修	1.5単位
<b>担当者</b>	重野 豊隆			
<b>一般目標 (GIO)</b>	現代医療に関わる出来事や現象の多様かつ本質的な意味をよりの確に認識するために、クリティカル・シンキング (Critical Thinking / Critical Reasoning, 根拠に基づく論理的考察) を自ら行う。			
<b>到達目標 (SBOs)</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療や患者に関わる複雑な問題について、筋道立てて考え抜く態度を身につける。</li> <li>2. 自分の先入観や偏見について冷静に見極めることができ、自己の見解を相対化できる。</li> <li>3. 資料の内容について論理的に要約し、それを発表することができる。</li> <li>4. 資料とそれを要約した文の内容について、批判的に考察できる。</li> <li>5. 自分とは異なった見解を持つ者と、冷静かつ発展的な意見交換や討論ができる。</li> </ol>			
<b>受講心得・準備学習等</b>	現代医療で問われる本質的論点について、より深くより広範に考えてみようとする態度が求められる。例えば第1学年「薬学の心構え I & II」や第2学年前期「生命倫理」で取り上げたテーマに関連が深い発展的テーマをじっくりと本格的に探究してみたい学生に向いている。下記の項目(テーマ)は予定テーマであり、学生が希望するテーマも積極的に取り上げる。全体を通して、毎回1時間以上の予習を前提とする。			
<b>事後学習・復習等</b>	授業で取り扱った内容を、新たに取り扱うテーマや論点の議論に常に活かせるように、授業終了後も他の学生との意見交換を積極的に行う習慣を身につけること。全体を通して、毎回1時間以上の復習を前提とする。			
<b>オフィスアワー</b>	授業期間中の木曜日 17:00-18:30 及び金曜日 17:00-18:30。			

### 授業の形式と各回の内容

授業の形式		ゼミナール形式(SGD)
回	項目	内容
1	ガイダンス	予定テーマの概略、評価の具体的方法と基準など
2	健康情報の活用	信頼できる健康情報をいかに判別するか。
3	治療の根拠	治療に関する確率論的根拠をどのように理解するか。
4	患者の人生の物語	人や患者はなぜ自分の人生を語るのか。
5	統合医療 (1)	信頼できる補完代替医療をいかにして判別するか。
6	統合医療 (2)	補完代替医療の生命観と歴史的源泉とはどんなものか。
7	まとめ (1)	特定の医療を選択する根拠に関する考察など
8	心身の自然と人為	エンハンスメント(心身能力の人為的増進)の倫理的限界とは。
9	人の人格(パーソン)	人工妊娠中絶の主要な論点とは。
10	パーソン論	植物状態と脳死状態をどう理解するか。
11	脳神経倫理	脳テクノロジーの発展の成果をどこまで活用するか。
12	死生観 (1)	終末期患者のスピリチュアル・ペインにいかに対応するか。
13	死生観 (2)	人の尊厳と人の QOL はいかなる関係にあるか。
14	まとめ (2)	現代医療の本質的特徴と多様な発展可能性など

<b>成績評価の方法</b>	ゼミナールへの積極的参加度と最終レポートとの総合点
<b>成績評価の基準</b>	授業態度 80% (各自発表 2 回以上、討論への参加度などを総合して評価する。特に自分とは異なる見解への柔軟な思考態度と論理的思考力の向上度を重視して評価する。) と最終レポート 20%。総合して、60%以上を合格とする。
<b>教科書</b>	毎回、教材プリントを配布する。
<b>参考書など</b>	<p>中山健夫「健康・医療の情報を読み解く」(丸善株式会社)</p> <p>浅井隆「医学統計の基礎のキソ」(アトムス)</p> <p>伊勢田哲治「擬似科学と科学の哲学」(名古屋大学出版会)</p> <p>小林道夫「科学の世界と心の世界 (中公新書 1986)」(中央公論新社)</p> <p>C・ヴィセント 他「補完医療の光と影 その科学的検証」(北大路書店)</p> <p>サイモン・シン 他「代替医療のトリック」(新潮社)</p> <p>グリーンハル 他「ナラティブ・ベイスト・メディスン」(金剛出版)</p> <p>齊藤清二「医療におけるナラティブとエビデンス 対立から調和へ」(遠見書房)</p> <p>河野哲也「暴走する脳科学 (光文社新書 377)」(光文社)</p> <p>信原幸弘/原塑 編「脳神経倫理学の展望」(勁草書房)</p> <p>L・Rカス 編著「治療を超えて バイオテクノロジーと幸福の追求」(青木書店)</p> <p>ジープス/ブラウン「脳科学とスピリチュアリティ」(医学書院)</p>

